

平成 22 年 3 月 17 日判決言渡

平成 21 年（行ケ）第 10181 号 審決取消請求事件

口頭弁論終結日 平成 22 年 3 月 10 日

判		決	
原	告	X	
訴訟代理人弁理士		石	黒 健 二
同		長	谷 真 司
同		生	田 直 子
被	告	アロン化成株式会社	
訴訟代理人弁理士		宇 佐 見	忠 男
主		文	

- 1 特許庁が無効 2006 - 80261 号事件について平成 21 年 5 月 25 日にした審決を取り消す。
- 2 訴訟費用は各自の負担とする。

事 実 及 び 理 由

原告は、主文第 1 項と同旨の判決を求め、請求の原因として別紙 1 のとおり述べた。

被告は、請求棄却の判決を求め、請求原因は争わないと述べた。

なお、被告は、訂正後の発明にあっても無効理由は解消されない旨主張するが、訂正後の発明につき改めて特許庁が判断すべきものと解するのが相当であるので、被告の上記主張は採用しない。

上記によれば、原告の本訴請求は理由があるから認容し、訴訟費用につき民訴法 62 条を適用して、主文のとおり判決する。

知的財産高等裁判所 第 2 部

裁判長裁判官 中 野 哲 弘

裁判官 森 義 之

裁判官 澁 谷 勝 海

(別紙 1)

請 求 の 原 因

- 1 原告は、発明の名称を「分岐管の接続装置」とする発明について平成 8 年 5 月 1 7 日特許出願（特願平 8 - 1 2 3 6 6 9 号）し、平成 1 5 年 2 月 7 日に特許第 3 3 9 6 1 2 8 号として設定登録を受け、その後平成 1 8 年 7 月 2 5 日付けで誤記の訂正を目的とする訂正審判を請求し（訂正 2 0 0 6 - 3 9 1 2 8 号）、平成 1 8 年 9 月 1 日付けでこれを認容する審決を受けた。

上記訂正後の特許請求の範囲は、別紙 2 記載のとおりである（請求項の数 5 ）。

- 2 これに対し被告が、平成 1 8 年 1 2 月 1 5 日付けで上記特許の請求項 1 ～ 5 について無効審判請求を行ったので、特許庁は、同請求を無効 2 0 0 6 - 8 0 2 6 1 号事件として審理した上、平成 2 0 年 4 月 3 0 日、上記特許の請求項 1 ～ 5 に係る発明についての特許を無効とする旨の審決（第 1 次審決）をした。

そこで原告が知的財産高等裁判所に対し上記審決の取消しを求める訴え（平成 2 0 年（行ケ）第 1 0 2 0 8 号）を提起したところ、同裁判所は、平成 2 0 年 8 月 2 8 日、特許法 1 8 1 条 2 項により上記審決を取り消す旨の決定をした。

上記決定により無効 2 0 0 6 - 8 0 2 6 1 号事件は再び特許庁で審理されることとなったが、特許庁は、平成 2 1 年 5 月 2 5 日、原告が平成 2 0 年 6 月 3 0 日付けでなした訂正審判請求（訂正 2 0 0 8 - 3 9 0 0 7 2 号）と同内容の訂正請求を認めないとした上、「特許第 3 3 9 6 1 2 8 号の請求項 1 ないし 5 に係る発明についての特許を無効とする」旨の審決（第 2 次審決）をし、その謄本は平成 2 1 年 6 月 4 日原告に送達された。

- 3 一方、原告は、上記第 2 次審決の取消しを求め本件訴訟（平成 2 1 年（行ケ）第 1 0 1 8 1 号）係属中の平成 2 1 年 8 月 7 日、本件特許の特許請求の範囲等の訂正を求める訂正審判を請求したところ（訂正 2 0 0 9 - 3 9 0 0 9 7 号事件）、これを審理した特許庁は、平成 2 2 年 1 月 2 6 日、「特許第 3 3 9 6 1 2 8 号に係る明細書及び図面を本件審判請求書に添付された訂正明細書及び図面のとおり

訂正することを認める。」との審決（以下「本件訂正審決」という。）をし，その謄本は平成 22 年 2 月 5 日原告に送達された。上記訂正後の特許請求の範囲は，別紙 3 記載のとおりである（請求項の数 2。旧請求項 3 ～ 5 は削除）。

- 4 以上によれば，平成 22 年 1 月 26 日になされた本件訂正審決の確定により，本件第 2 次審決が前提とする発明の要旨の認定は誤りに帰したことになるので，本件第 2 次審決の取消しを求める。

(別紙 2)

特許請求の範囲 (平成 1 8 年 9 月 1 日付け訂正審決時のもの)

【請求項 1】 本管に形成された開口に分岐管を接続するための接続装置であって、
支管部および該支管部の一端部の外周に形成された鍔部からなるフランジと、内壁に被係合部が設けられ、一端部が前記支管部に差し込まれる内筒と、一端に前記本管の内周面に引っ掛かる引っ掛け部が形成され、他端に前記被係合部に係合する係合部が設けられた複数の固定具と、前記内筒の外周に螺合され、回動により前記内筒を他端側に変位させる締め付け輪とを備え、

前記開口の外周縁部に前記フランジの鍔部を当接させておき、前記支管部の他端側から、前記被係合部に前記係合部を係合させた前記複数の固定具を有する前記内筒の一端部を挿入して、前記複数の固定具の引っ掛け部を前記本管の内周面に引っ掛け、前記締め付け輪を回動させて前記内筒を他端側に変位させて前記フランジと前記本管とを締結させる分岐管の接続装置において、前記係合部は、前記内筒の軸方向を向いた係合面を有する係合凹所を備え、

前記被係合部は、前記係合凹所内を前記内筒の軸方向に摺動する係合部材を備え、

前記係合部材を前記係合凹所に嵌め込み、前記締め付け輪の回動により、前記係合面に対し前記係合部材を前記軸方向に摺動させ、前記被係合部に前記係合部を係合させることを特徴とする分岐管の接続装置。

【請求項 2】 本管に形成された開口に分岐管を接続するための接続装置であって、
支管部および該支管部の一端部の外周に形成された鍔部からなるフランジと、内壁に被係合部が設けられ、一端部が前記支管部に差し込まれる内筒と、該内筒の一端部に形成され、前記本管の内周面に引っ掛かる固定引っ掛け部と、一端に前記本管の内周面に引っ掛かる引っ掛け部が形成され、他端に前記被係合部に係合する係合部が設けられた固定具と、前記内筒の外周に螺合され、回動により前記内筒を他端側に変位させる締め付け輪とを備え、

前記開口の外周縁部に前記フランジの鍔部を当接させておき、前記支管部の他端

側から，前記被係合部に前記係合部を係合させた前記固定具を有する前記内筒の一端部を挿入して，まず前記固定引っ掛け部を本管の内周面に引っ掛け，つぎに前記固定具の引っ掛け部を前記本管の内周面に引っ掛け，前記締め付け輪を回転させて前記内筒を他端側に変位させて前記フランジと前記本管とを締結させる分岐管の接続装置において，

前記係合部は，前記内筒の軸方向を向いた係合面を有する係合凹所を備え，

前記被係合部は，前記係合凹所内を前記内筒の軸方向に摺動する係合部材を備え，

前記係合部材を前記係合凹所に嵌め込み，前記締め付け輪の回転により，前記係合面に対し前記係合部材を前記軸方向に摺動させ，前記被係合部に前記係合部を係合させることを特徴とする分岐管の接続装置。

【請求項 3】 請求項 1 または 2 において，前記被係合部と前記係合部とは，前記内筒の軸方向に複数段に形成されたことを特徴とする分岐管の接続装置。

【請求項 4】 請求項 1 ～ 3 のいずれかにおいて，前記係合凹所は，前記内筒の軸方向を向いた係合面を有するスリットまたは穴であり，前記係合部材はピンであることを特徴とする分岐管の接続装置。

【請求項 5】 請求項 1 において，前記固定具の一端部を，前記内筒の内壁面に回転自在に支持したことを特徴とする分岐管の接続装置。

(別紙 3)

特許請求の範囲 (平成 2 2 年 1 月 2 6 日付け訂正審決時のもの。下線は訂正部分)

【請求項 1】 本管に形成された開口に分岐管を接続するための接続装置であって、
支管部および該支管部の一端部の外周に形成された鐳部からなるフランジと、
内壁に背向して形成される 2 つの縦溝が設けられ、一端部が前記支管部に差し込まれる内筒と、
一端に前記本管の内周面に引っ掛かる引っ掛け部が形成され、他端に前記縦溝に嵌まり込む縦板部が設けられた 2 つの固定具と、
前記内筒の外周に螺合され、回転により前記内筒を他端側に変位させる締め付け輪とを備え、
前記縦溝の両側壁には、それぞれ、前記内筒の軸方向に並ぶように 2 本のピンが周方向に突設され、一方の側壁に突設されたピンと他方の側壁に突設されたピンとが互いに対向して、前記軸方向に 2 段の対をなし、
前記縦板部の両側面には、それぞれ、前記 2 本のピンの位置に対応するように 2 つの係合凹所が形成され、
それぞれの係合凹所は、前記縦板部の外壁面及び側面に開口する入口部と、この入口部から他端側に延びるとともに、前記縦板部の側面に開口するスライド部とからなり、前記縦板部の側面に L 字状に開口し、
前記スライド部は、前記軸方向に向いた係合面を有し、
前記本管の開口の外周縁部に前記フランジの鐳部を当接させておき、
前記支管部の他端側から前記内筒の一端部を差し込むとともに、前記固定具の前記入口部に前記内筒の前記ピンを嵌め込んで、前記引っ掛け部を前記本管の内周面の下方に設定し、
前記締め付け輪を回転させて前記内筒を他端側に変位させることで、前記係合面に対し前記ピンを前記軸方向に摺動させ、前記ピンを前記スライド部に嵌め込むことを特徴とする分岐管の接続装置。

【請求項 2】本管に形成された開口に分岐管を接続するための接続装置であって、
支管部および該支管部の一端部の外周に形成された鐳部からなるフランジと、
内壁に縦溝が設けられ、一端部が前記支管部に差し込まれる内筒と、
該内筒の一端部に形成され、前記本管の内周面に引っ掛かる固定引っ掛け部と、
一端に前記本管の内周面に引っ掛かる引っ掛け部が形成され、他端に前記縦溝に
嵌まり込む縦板部が設けられた固定具と、
前記内筒の外周に螺合され、回動により前記内筒を他端側に変位させる締め付け
輪とを備え、
前記縦溝の両側壁には、それぞれ、前記内筒の軸方向に並ぶように 2 本のピンが
周方向に突設され、一方の側壁に突設されたピンと他方の側壁に突設されたピンと
が互いに対向して、前記軸方向に 2 段の対をなし、
前記縦板部の両側面には、それぞれ、前記 2 本のピンの位置に対応するように 2
つの係合凹所が形成され、
それぞれの係合凹所は、前記縦板部の外壁面及び側面に開口する入口部と、この
入口部から他端側に延びるとともに、前記縦板部の側面に開口するスライド部とか
らなり、前記縦板部の側面に L 字状に開口し、
前記スライド部は、前記軸方向に向いた係合面を有し、
前記本管の開口の外周縁部に前記フランジの鐳部を当接させておき、
前記支管部の他端側から前記内筒の一端部を差し込むとともに、前記固定具の前
記入口部に前記内筒の前記ピンを嵌め込んで、まず前記固定引っ掛け部を前記本管
の内周面に引っ掛け、つぎに前記固定具の引っ掛け部を前記本管の内周面に引っ掛
け、
前記締め付け輪を回動させて前記内筒を他端側に変位させることで、前記係合面
に対し前記ピンを前記軸方向に摺動させ、前記ピンを前記スライド部に嵌め込むこ
とを特徴とする分岐管の接続装置。